

弘前大学大学院地域社会研究科
地域と地域企業の持続的発展のための公開セミナー

「地域ブランドと アパレル企業の役割」

青森県をはじめ東北地方には、アパレル関連の企業が多く立地している。今回、株式会社サンライン(青森県田舎館村)、岩手モリヤ株式会社(岩手県久慈市)、そして佐藤繊維株式会社(山形県寒河江市)の企業家を招き、地域ブランドとアパレル企業の役割を論じる。雇用などが注目されがちなアパレル企業は、地域ブランドの重要な担い手であることを学びたい。

日時 2023年2月20日(月) 15:00-17:00 (14:30開場)

会場 弘前大学人文社会科学部棟4階 多目的ホール(青森県弘前市文京町1)

参加 事前申し込みは不要です。直接会場へお越しください。

次第 開会挨拶

ご挨拶

津軽人のクラフトマンシップと株式会社サンライン——佐藤 克豊 氏

国内縫製業の重要性と“アパレルの聖地”北いわての取組み——森奥 信孝 氏

これからの地方ブランドの情報発信と佐藤繊維株式会社——佐藤 正樹 氏

相互討論及び質疑

閉会

■お問い合わせ先■

国立大学法人弘前大学 大学院地域社会研究科

〒036-8560 弘前市文京町1番地

TEL : 0172-39-3960 E-mail : jm3960@hirosaki-u.ac.jp

－プログラム－

- 15:00 開会挨拶 地域社会研究科長 森 樹男
- 15:05 ご挨拶 弘前大学 理事 曾我 亨(ビデオメッセージ)
- 15:10 「津軽人のクラフトマンシップと株式会社サンライン」
株式会社サンライン 代表取締役社長 佐藤 克豊 氏
- 15:40 「国内縫製業の重要性と“アパレルの聖地”北いわての取組み」
岩手モリヤ株式会社 代表取締役社長 森奥 信孝 氏
- 16:10 「これからの地方ブランドの情報発信と佐藤繊維株式会社」
佐藤繊維株式会社 代表取締役社長 佐藤 正樹 氏
- 16:40 講師による相互討論及び質疑
進行：大学院地域社会研究科・副研究科長 佐々木 純一郎
- 17:00 閉会

－講演者一覧（発表順）－

佐藤 克豊 氏 「津軽人のクラフトマンシップと株式会社サンライン」



1965年黒石市生まれ。57歳。

昨年3月末で閉校した「青森県立黒石商業高校」を卒業し調理師見習として上京、3年弱で帰青し地元の小さいホテルで調理師として勤める。その後間もなく名古屋の縫製会社に入り研修後、その分工場「(株)マンキ（田舎館工場～黒石工場）」に15年勤務し、2001年4月に倒産！35歳の時でした…当時の同僚の働きかけによりサンラインを設立し、2001年5月～株式会社サンラインの代表取締役をしております。

IACDE（国際衣服デザイナー・エグゼクティブ協会）日本支部会員

JQFBP（ジャパंकオリティー ファクトリーブランドプロジェクト）にチャレンジ中！

森奥 信孝 氏 「国内縫製業の重要性と“アパレルの聖地”北いわての取組み」



1953年11月4日、東京・文京区生まれ。69歳。

文化服装学院を卒業後、父親が創業した縫製会社のモリヤ洋装に入社。同社から分社する形で、1988年、岩手モリヤ(株)を岩手県久慈市に設立し、社長に就任。

独自の技術を駆使したものづくりにより、高級婦人既製服等を手掛ける。(一社)北いわてアパレル産業振興会代表理事、東北六県縫製団体連合会副会長、日本モデリスト協会副会長、「日本発ものづくり提言プロジェクト」実行委員会委員

佐藤 正樹 氏 「これからの地方ブランドの情報発信と佐藤繊維株式会社」



1966年山形県寒河江市生まれ。文化服装学院を卒業後、アパレルメーカーに勤務。

92年に佐藤繊維に入社し家業を継承、2005年に代表取締役社長に就任。

糸づくりからニットの仕事に至るすべての工程において「ものづくり」にこだわり、独創的な製品を世界に向けて発信し、付加価値の高い自社ブランドを確立。欧米の一流ブランドに糸を供給するまでに成長し、ニットを消費者に直接訴求する流通を開拓した。

ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞受賞など、多くの受賞歴があり、山形県ニット工業組合及び日本ニット工業組合連合会の理事長を務めながら、寒河江市観光物産協会長にも就任し、地域経済の活性化にも取り組む。